



**2021**  
Annual Report

## インパクト投資のメインストリーム化を進め 社会起業家支援のエコシステムを確立する

このたび、アニュアルレポート2021を発行するにあたり、関係者の皆様にご挨拶を申し上げます。

2021年度は、コロナ禍が続く厳しい条件下ながら、社会変革推進財団（SIIF）のテーマであるインパクト投資や社会的企業の分野で、大きな進展が得られました。

思い返せば、日本で初めて、インパクト投資推進に向けた組織だった動きとして、「G8社会的インパクト投資タスクフォース（現 Global Steering Group for Impact Investment : GSG）」日本委員会が始まったのが、2014年のことでした。それから7年目の2021年11月29日、ついに21の国内金融機関が「インパクト志向金融宣言」に署名するところとなりました。

これに先立つ9月には、SIIF主催の「インパクト投資フォーラム」にオンラインながら360名の方が参加し、登壇した大手金融機関トップから「日本でも、今まさにインパクト投資がメインストリーム化する兆しがある」という力強い発言をいただいています。

2021年度はまた、改めて、社会起業家に期待が集まった年でもありました。コロナ禍によって一層はっきりしたことは、政治や公共セクターの限界と、個人や民間セクターの主体的な役割の重要性であり、すなわち、税金を元にした公的資源と、ダイナミックな民間のノウハウや資金との協業の必要性と可能性です。これにより、社会課題を意識した起業家と、起業家を支える投資家に期待が集まりました。

2021年度も、SIIFは自己資金や休眠預金による投資活動や伴走支援を通じて社会起業家をサポートして参りました。これらの活動によりSIIFは、インパクト投資や社会起業家支援分野の中心的な組織として広く認知されるようになりました。その結果、複数の金融機関や富裕層から、有償でインパクト投資やフィランソロピー活動の助言を求められています。

とはいえ、日本のインパクト投資残高は、いまだ欧米諸国と比べると大きく見劣りします。GDP世界第3位の経済大国でありながら、インパクト投資残高は世界の約3%に過ぎません。SIIFが行った意識調査では、一般のインパクト投資の認知度はわずか6%です。インパクト投資がようやくメインストリーム化したとはいえ、ごく一部の金融機関・機関投資家等の段階にとどまっています。

社会起業家支援など他分野でも、まだ課題は山積しています。これらを乗り越えるため、SIIFでは、関係者全員で共有できる中長期戦略を策定中です。

思えば、コロナ禍に明け暮れた2年間に私たちが失ったものは、有形無形を問わず多大です。しかし、マイナスばかりではありません。人間や社会のシステムの弱点が明らかになる一方で、人と人のぬくもりの価値が改めてクローズアップされ、未来をよりよくするための多くのヒントが示されました。災禍から変革を創造するためには、今をより深く理解し、本質を見ぬく力、洞察力、想像力と行動が必要です。知性と感性のアンテナを張り巡らせ、想像力をフル稼働させて、全てのヒントを吸収し、よりよい社会に向かって前進していきましょう。

このアニュアルレポートを手にとっていただく皆様におかれましては、今後ともSIIFへの一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



# Capital For Social Innovation

## 2021 Annual Report

- 1 理事長メッセージ
- 2 目次
- 3 Vision / Mission
- 4 3つの役割
- 5 支援先マップ
- 7 2021年度の取り組み
- 9 2021年度活動実績①  
金融機関による「インパクト志向金融宣言」を実現
- 11 2021年度活動実績②  
ゼブラ企業を支援する Zebras and Companyに出資
- 13 2022年度活動実績③  
休眠預金活用事業でコレクティブな地域活性化を支援
- 15 組織概要・財務状況

# 社会の課題解決に 新しい経済で挑む

## インパクトとは、「未来への意志」

経済的な価値が重要視された時代は終わり、社会、環境、文化など価値判断のモノサシが多様化している現代。私たちは企業、自治体、NPO団体などと共に、自助・公助・共助の枠組みを超えた社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくるために、様々な事業を行なっています。社会課題の解決と多様な価値創造が自律的・持続的に起こる社会を目指して、財団という、私たちの立場だからできることがあります。

## Vision

### 社会課題解決と多様な価値創造が 自律的・持続的に起こる社会の礎をつくる

SIIFが目指すのは、人や地域がそれぞれの幸せをかなえられる包摂的な社会です。それは、人や地域がそのあり方を自ら求め、選び、創造し続けるものと考えます。

## Mission

### 社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくる

市場経済を中心とした自助。中央集権的な再分配システムに基づく公助。そして身近な助け合いの形である共助や互助。SIIFは、これらの枠組みを超えた資金・人材・知見などの資源の新しい循環モデルの構築を目指し、社会的な成果に対する多様な価値のモノサシを示していきます。

## 3つの役割



### 資本提供

リスクキャピタルを提供し、  
モデルを示す

新たな資源循環の仕組みをつくる、  
前例のない事業や取組に資金を提供し、  
モデル開発を行います。



### 知識創造

実践知を生み出し、  
社会変革を誘発する

私たち自身の新たな挑戦から学びを  
取り出し、他の実践者と共有すること  
で、実践知の波及を促します。



### ネットワーク

実践者どうしを繋ぎ、  
エコシステムの要となる

ともに挑戦する実践者を繋ぎ、協働  
や学び合いを後押しすることで新た  
な資源循環のエコシステムをさらに  
豊かにすることを目指します。

社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくる。  
そのために、SIIFは3つの役割を果たしていきます。

## 支援先マップ

SIIFの支援先(42)を7つのカテゴリーに分類。

支援方法 GP(無限責任組合員)投資 / LP(有限責任組合員)投資 / 直接投資 / 助成

### 医療・介護

#### Aillis

AI医療機器の開発と開発プラットフォームの提供

#### Adria kaim

急性心筋梗塞に対する革新的治療法となる医療機器 (ARIS) の開発



励まし合いながら生活習慣の改善に取り組めるアプリ「みんなチャレ」の運営

#### Spigno

医療スタッフのキャリア開発等の医療機関向けマネジメントシステムの提供

#### 笑美面

メディカルソーシャルワーカー、ケアマネージャー等に最適な高齢者施設を紹介



「治療アプリ®」の研究開発・製造販売、モバイルヘルス関連サービス事業



誰もが気軽に介護施設を手伝えるスキルシェアサービス「スケッター」の提供

#### Smart Hospital

総合病院向けに感染管理・業務改善ソリューションを提供



兵庫県北・但馬地域で、医療・介護・福祉の包括的・継続的な提供体制を構築

#### KNOCK ON THE DOOR

難病患者と家族向け支援プラットフォームを軸とした事業開発、事業支援

#### HACARUS

少量データで高精度の成果を得るスパースモデリング技術に応用した独自AIの開発

#### ファーマクラウド

薬局業務の効率化、医薬品在庫の共有等、薬局特化型SaaSの開発・運用等



#### MITAS Medical

眼疾患の早期検診、遠隔医療を促すハンディタイプの眼科診断機器の開発・販売

#### Rehab

効率よく効果的な機能訓練業務ができるクラウドソフト「リハプラン」の展開



#### Lily MedTech

乳がん早期発見のため、痛みのない乳房超音波画像診断装置を開発

#### Rhelixa

Decoding Life, Creating Future

エピゲノムを指標とした加齢関連疾患のリスク早期発見検査を開発

SIB 岡山市健康ポイント

SIB 豊中市禁煙

### 教育・子育て



安心で快適な完全個室のベビーケアルーム「mamaro」の開発・運営



AIやIoTを活用した保育施設の労働環境改善と保育の質の向上推進

#### Life is Tech!

「未来の選択肢」を増やす、中高生向けITプログラミング教育の提供

### 防災対策



世界中のレンガ・石積み建物の耐震性を向上する材料製造・施工、解析法開発

### 地域活性化



#### ADDRESS

日本各地の遊休不動産をリノベーションし、月額制の多拠点生活サービスを提供

#### ココホレ ジャパン

地域の生業を継続していくためのメディアプラットフォーム「継業バンク」開発・運営



#### Share Village

“村”のようなコミュニティをつくって運営する共創型プラットフォームの開発・提供

#### sonraku

地域内の森林資源を活用した中規模木質バイオマス熱電併給設備の建設・運営



#### 東の食の会

東日本の食の復興と創造を促す、マーケティングや関連企業とのマッチング支援

#### PLUS SOCIAL Investment

地域が地域であるために社会的投資の仕組みを創り出す会社



#### POCKETMARCHÉ

生産者と消費者をつなぐCtoCプラットフォーム「ポケットマルシェ」の運営



新潟県越後妻有地域を舞台とした、子供の体験格差解消プログラムの企画・実施

#### Local Life Design

宮城県女川町での、新規事業への包括的な支援体制の構築

### 福祉・自立支援



貧困家庭における食事・居住・就労の3課題を同時に解決できる体制を構築



#### Compass

これまでに1万人以上が利用。相談×テクノロジーで地方労働市場の問題を解決する



#### 株式会社ヒューマンアルバ

依存症患者(アルコールやギャンブル等)に、社会復帰に必要な4つの支援を提供



#### HERAL BONY

障害のあるアーティストをプロデュースし、障害者のイメージと生き方を変える



単身高齢者や母子家庭等の住宅確保困難者に「こころ安らげる住まい」を提供



#### ONELIFE

子供から大人までの障害者を対象に、日常生活・社会生活を総合的に支援

### 社会起業家支援



社会課題の解決を目指す「ゼブラ企業」を支援し、ゼブラ経営を社会に実装する



地場企業育成のため地元金融機関と「ローカルビジネスラボ〜TANOMOSHI」を運営

### 多様な働き方

#### YELL

社外人材による1on1サービス「YELL」の運営、組織開発・人材育成コンサルティング

#### シングルマザー 起業支援ファンド

シングルマザー向けのウェブメディア起業支援プログラム

#### Linc

来日を希望する外国人材を、留学からキャリアまで一気通貫でサポート

## 2021年度の取り組み



2021年度はインパクト投資、休眠預金事業に加え、「インパクト志向金融宣言」を実現。調査報告やレポートも多数発行しています。

4月

4月6日 **発行物**

GSG 国内諮問委員会「日本におけるインパクト投資の現状と課題 2020年度調査」



4月15日 **インパクト測定・マネジメント**

金融庁・GSG 国内諮問委員会共催(事務局・SIIF)「第5回インパクト投資に関する勉強会」

※2020年6月～21年6月に第1フェーズ全6回開催

6月

6月21日 **オルタナティブ事業**

社会課題の解決と持続的な経営の両立を目指すゼブラ企業を支援する「Zebras and Company」に出資

7月

7月9日 **発行物**

「ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンド インパクトレポート 2020」



10月



10月15日 **発行物**

「ADDRESS Impact Report vol. 1」

10月18日 **インパクト投資**

はたらくFUND、「Compass」に投資



1月

1月24日 **発行物**

「SIIF 休眠預金事業インパクトレポート」



2021

5月

5月12日 **イベント**

「新しい社会貢献活動を支えるフィランソロピー・アドバイザーとは」

5月21日 **発行物**

「成果連動型契約(PFS)/ソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)に関する研究会」報告書

5月27日 **休眠預金事業**

2020年度「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」において4実行団体を採択



9月

9月17日 **休眠預金事業**

2021年度休眠預金等活用制度「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」の資金分配団体に採択

9月27日 **発行物**

「2021年度インパクト投資に関する一般消費者調査」

9月28日 **イベント**

「インパクト投資フォーラム 2021」



9月30日 **インパクト投資**

はたらくFUND、「Linc」に投資

11月

11月16日 **インパクト投資**

インパクト投資の先駆的実践団体「アキュメン」と業務提携

11月24日・25日 **休眠預金事業**

「休眠預金事業支援先合同セッション」開催

11月29日

金融機関21社、環境・社会課題解決を目指す「インパクト志向金融宣言」に署名



2022

3月

3月29日 **イベント**

ハルキゲニアフェス2022  
HALLUCIGENIA Fes 2022



## 金融機関による「インパクト志向金融宣言」を実現

2021年11月29日、21の金融機関が「インパクト志向金融宣言」に署名しました。金融機関が組織の目的に環境・社会課題の解決を掲げ、その成果を測定、共有し、推進・普及していくという画期的な宣言です。



2021年11月29日に開催された記者会見の様子。最初に署名した21機関のうち18機関の代表者17名が登場した



インパクト志向金融宣言Webサイト  
<https://www.impact-driven-finance-initiative.com/>

### インパクト志向金融宣言 本文

**01** 金融機関が社会から期待されている役割を果たすためには、その経営においてインパクト志向を持つことの重要性を理解しており、インパクト志向の投融資<sup>(注1)</sup>を各参加金融機関において実践するように取り組んでいく。

**02** 金融機関がその投融資活動を通じて生み出すインパクトを可視化し、投資戦略や投資判断に活用しインパクト創出に向けた努力を継続することが必要であると考えており、IMM<sup>(注2)</sup>を伴う投融資活動や金融商品の提供を推進する。

**03** 以上の取り組みに関して、それぞれの組織の状況に応じて自らの計画を策定したうえで、実践されたベストプラクティスや推進上の課題を署名者間で共有・議論することを通じて、この活動が持続的に発展できるように運営していく。

**04** IMMの質の向上やインパクト志向の投融資の量的拡大に向けて、署名金融機関のワーキングレベルで、意見・情報交換および必要な調査研究など、協動的な活動を行っていく。

**05** 本宣言に参加していない金融機関を含む我が国の金融業界全般にインパクト志向の金融機関経営の在り方やIMMの取り組みが波及していくように協調して活動を行う。

**06** 海外で取り組まれているインパクト志向の投融資やIMMの推進にかかるイニシアティブに意欲的に参加し、国際的なインパクト志向の投融資の推進に貢献するとともに、我が国からの発信を積極的に行っていく。

**07** この活動を、我が国金融業界が、自律的にインパクト志向の投融資を持続的に発展させることができるようになるまで継続する。

注1：ここで言う「インパクト志向の投融資」とは、GSG国内諮問委員会の定義する「インパクト投資」と同義である。融資・債券・上場株式・未公開株式などあらゆる金融形態を含む。

注2：「インパクトの測定・マネジメント (IMM)」とは、金融機関がその投融資活動を通じて生み出すインパクトを測定して可視化するとともに、戦略の策定や投資先とのエンゲージメントを通じて創出されるインパクトを管理することを言う。

### 署名機関からのコメント

運営に携わる7機関7名の方からコメントを頂きました。

※社名50音順、敬称略

「リレーションシップバンキングのその先にインパクトの創出がある」と静岡銀行は捉えており、インパクト投資の中でも、特に中小企業（SME）間接金融の分野を先導するべく取り組んでいきます。ポジティブインパクトのみならず、ネガティブインパクトを低減することにも着目し、地域のSDGsをポジティブ・インパクト・ファイナンスを通じ実現していきます。

株式会社静岡銀行 ソリューション営業部  
 担当部長 / 池田 正嗣



インパクト志向金融宣言とその活動が始まった2021年は、後年、日本のインパクトファイナンス元年と呼ばれるでしょう。金融の業態を跨いでIMMの理念を横串で浸透させる本宣言の理念は、世界に先駆けたものでもあります。様々な課題はありますが、今後の市場発展の礎作りには貢献して参りたいと思います。

三井住友トラスト・ホールディングス株式会社  
 フェロー役員 チーフ・サステナビリティ・オフィサー / 金井 司



インパクト志向金融宣言は、金融の役割を再定義する上で重要な取り組みだと信じており、周囲からの期待も非常に感じております。ベンチャーキャピタルという立場から、地球と人類の課題解決を目指すスタートアップのエコシステム形成、更には日本のインパクト投資業界の発展と世界的プレゼンス向上に貢献して参りたいと思います。

リアルテックホールディングス株式会社  
 取締役社長 / 藤井 昭剛 ヴィルヘルム



地域の未来を豊かにするためのインパクトを作り出すには、金融機関が主体となり社会課題を解決する企業のサポートや、企業と地域の人々を繋ぐコミュニティの創出が必要であると考えています。インパクト志向金融宣言が、多くの金融機関がそれぞれの地域でこのような金融行動を起こす原動力となるものとして運営に参画して参ります。

京都信用金庫 ネットコミュニティ共創部  
 課長 / 石井 規雄



金融機関がインパクトという新たな軸を持ち投融資を推進することは、よりよい未来を創るための大きな後押しになると考えています。新生銀行グループは、志を同じくする署名機関のみならずと協働し、これまで推進してきたサステナブルインパクトの取り組みを一段と深化させるとともに、インパクト志向金融の発展に取り組んで参ります。

株式会社新生銀行 サステナブルインパクト推進部  
 サステナブルインパクト評価室 室長 / 平田 みずほ



投資によるインパクト測定およびマネジメントプロセスを高度化し、責任ある受託者としての投資行動を推進していくことで「安心・豊かな社会」に繋がると考えています。他の署名機関と協働してインパクト志向の投融資発展に向けた活動を推進し、幅広いステークホルダーと共に環境・社会課題の解決を目指して参ります。

三菱UFJ信託銀行株式会社  
 アセットマネジメント事業部  
 フェロー・責任投資ヘッド / 加藤 正裕



「私たちに明確なアイデンティティがある」、「よりよい未来を目指す」ことがよりどころとなり、自分事として捉えることを大切にしています。マネジメントによるサポートのもと、インテンション（意図）をより深く自分事として捉え、インパクトに対する私たちの思いを多くのおみなさんと共鳴（Resona）したいと強く思っています。

りそなアセットマネジメント株式会社  
 執行役員 責任投資部長 / 松原 稔



### 署名機関(五十音順)

- ・アセットマネジメントOne株式会社
- ・ANRI株式会社
- ・株式会社ウィズ・パートナーズ
- ・株式会社環境エネルギー投資
- ・株式会社かんぽ生命保険
- ・株式会社キャピタルメディカ・ベンチャーズ
- ・京都信用金庫
- ・GLIN Impact Capital
- ・グローバル・ブレイン株式会社
- ・株式会社静岡銀行
- ・株式会社新生銀行
- ・第一勧業信用組合
- ・株式会社三菱UFJ銀行
- ・第一生命保険株式会社
- ・但馬信用金庫
- ・株式会社ドリームインキュベータ
- ・日本ベンチャーキャピタル株式会社
- ・Beyond Next Ventures 株式会社
- ・フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
- ・プラスソーシャルインベストメント株式会社
- ・株式会社MAKOTOキャピタル
- ・三井住友トラスト・ホールディングス株式会社
- ・株式会社三菱UFJ銀行
- ・三菱UFJ信託銀行株式会社
- ・ミュージックセキュリティーズ株式会社
- ・リアルテックホールディングス株式会社
- ・株式会社りそなホールディングス
- ・立命館ソーシャルインパクトファンド投資事業有限責任組合

(2022年3月31日時点)

## ゼブラ企業を支援する Zebras and Companyに出資

社会課題の解決と企業成長の両立を目指す“ゼブラ企業”を支援する、株式会社 Zebras and Company (以下、Z&C)と協働。社会的企業への資金の流れを生み出すきっかけづくりを目指します。

Z&Cは、ゼブラ企業への支援に特化した会社です。SIIFは出資を通じてZ&Cと協働し、ゼブラ企業を対象とした経営ノウハウや投資スキームの知見化・創出を推し進めます。具体的には「プロフィットシェア型資金調達」や「Exit to Community」など、ゼブラ企業に関連するコンセプト・手法についても研究し、ゼブラ企業を始め、必ずしもIPOやM&Aを志向しない“オルタナティブ”な社会的企業における仕組みづくりに取り組みます。

### ゼブラ企業とは？

“Zebras” (ゼブラ企業) とは、ゼブラ企業のグローバルコミュニティ「Zebras Unite」が提唱した概念です。Z&Cは、ゼブラ企業の特徴を下記の4点に整理しています。

**01** 事業成長を通じて、より良い社会をつくることを目的としている

**03** 長期的で包摂的な経営姿勢である

**02** 時間、クリエイティブ、コミュニティなど、多様な力を組み合わせる必要がある

**04** ビジョンが共有され、行動と一貫している

### ユニコーンとゼブラ企業の違い

	ユニコーン	ゼブラ企業	
なぜ	目的	指数関数的な成長	持続的な繁栄
	ゴール	上場、売却、10倍成長	収益性、持続可能、2倍成長
	結果	独占	複数での共存
どのように	世界線	ゼロサム、勝者と敗者	ウィン-ウィン
	方法論	競争	協力
	自然にたとえると	寄生	相利共生
	資源	隠し持つ	共有する
	スタイル	独断的	参加型
	求め方	常に不足、更に、もっと	十分だが、より良く
だれが	受益者	限られた個人、株主	公共、コミュニティ
	チーム編成	エンジニア偏重	コミュニティマネージャー、顧客サポート、エンジニアがバランスよく
	ユーザーへの対価	関心惹起に対して(不透明)	価値に対して(透明性がある)
何を	測り方	量的	質的
	優先順位	ユーザー獲得	ユーザーの成功

対比表:Tokyo Zebras Unite「世界で注目される「ゼブラ」とは ～アンチ・ユニコーンから生まれた経営スタイル～」を参照

## Zebras and Companyについて

Z&Cは、2019年から「Zebras Unite」の東京チャプターである「Tokyo Zebras Unite」を運営し、ゼブラ企業という概念の啓蒙・浸透に尽力してきた阿座上氏・陶山氏・田淵氏が、共同で創設しました。ゼブラ企業への投資や経営支援、ゼブラ経営の理論化、行政や金融機関などとの多様なパートナーシップ、ムーブメント・コミュニティづくりを行い、ゼブラ経営の社会実装に取り組んでいます。目指すのは「優しく健やかで楽しい社会」の実現です。



Zebras and Company共同設立者・代表取締役。  
左から田淵良敬氏、阿座上陽平氏、陶山祐司氏  
画像提供：Zebras and Company

### 2021年の活動

- ・ムーブメント/コミュニティづくり (ZEBRAHOOD開催、Life Type1公開)
- ・ゼブラ企業への投資 (株式会社陽と人)
- ・ゼブラ企業への経営支援 (Finance for Purpose開始)
- ・パートナー支援

### Z&C出資先第1号 陽と人(ひとびと)

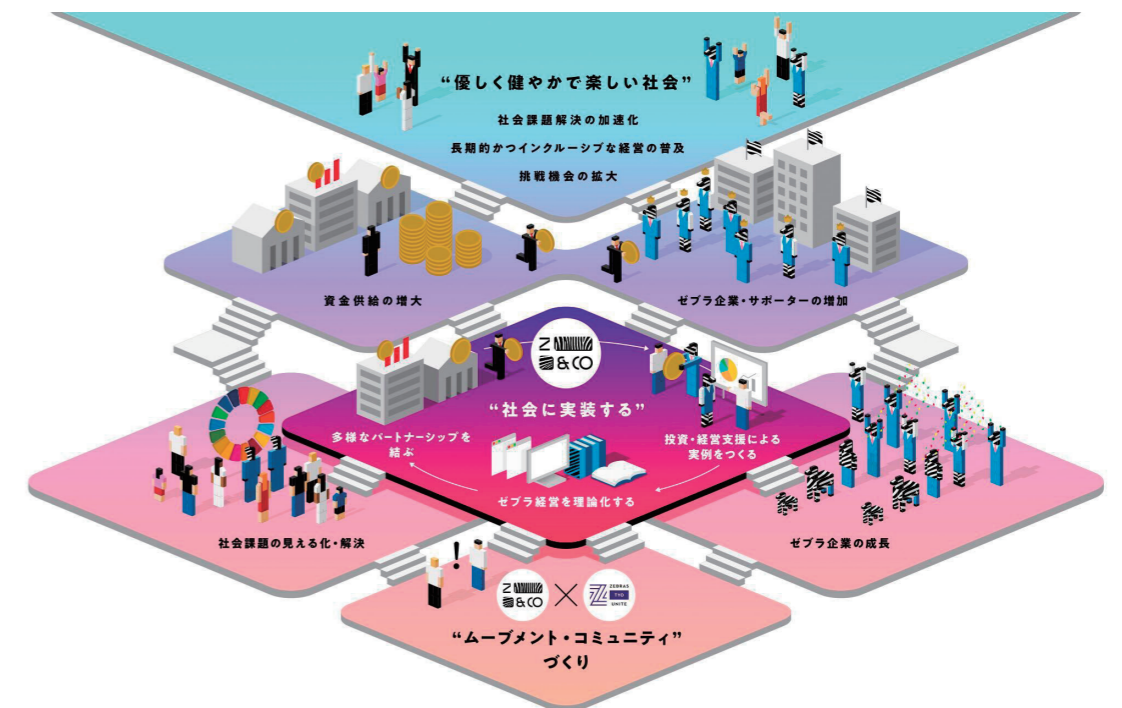
福島県国見町を拠点に、“もったいない地域資源”を価値化するゼブラ企業



株式会社 陽と人

### 代表取締役 田淵良敬氏のコメント

2021年は設立初年度としては想定以上にチャレンジできた年でした。出資していただいたことはもちろん、ゼブラ企業支援に関わる議論、SIIFのブログを通じた情報発信、勉強会への登壇など多岐にわたってご支援いただきました。引き続き一緒に未来を作っていくことを楽しみにしています。



画像提供：Zebras and Company

## 休眠預金活用事業でコレクティブな地域活性化を支援

SIIFは2019年度から3年連続で休眠預金等活用制度の資金分配団体に採択されました。今年度は“コレクティブ”をテーマに、関係者と連携して地域課題の解決に取り組む、4つの団体の支援を開始しました。

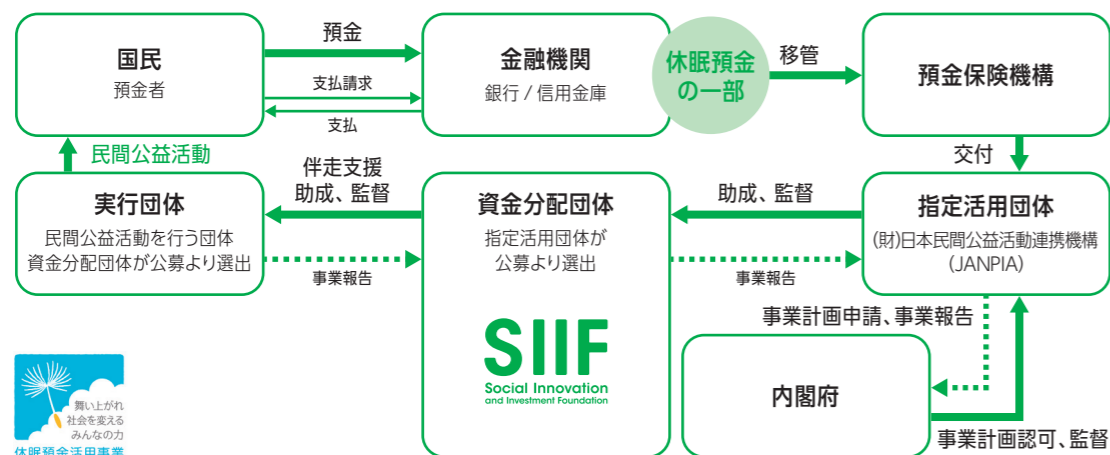
SIIFの休眠預金事業が一貫して持つテーマは「地域の活性化」です。助成・伴走期間は3年間。昨年度のソーシャルビジネス成長支援に続き、今年度は、複数の組織が協働して社会課題に取り組むための、地域支援体制づくりを支援しています。集的に地域課題に取り組むことで、事業の持続可能性と社会的インパクトをより高めることが狙いです。加えてSIIFは、指定活用団体の日本民間公益活動連携機構が設置した業務改善PTに参加。休眠預金等活用制度そのものの実効性向上にも寄与します。

### SIIFロジックモデル

#### 「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」(2020年度事業)



### 休眠預金等活用制度の体制



## 「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」実行団体

特定非営利活動法人  
空家・空地活用サポート SAGA(サガ)



佐賀県内で、空き家・空地問題の解決に尽力している。本事業では、子ども支援を手掛ける他団体と協業し、寄付の食品をいつでも受け取ることができる“コミュニティフリッジ”を開設。また、空き家を改修し、ひとり親家庭向けのシェアハウスと寄付物資の物流拠点を兼ねた“住居付きフードパントリー”に活用。住まいの提供に加え、物資の仕分け作業を担ってもらうことで就労も支援する。

特定非営利活動法人  
但馬を結んで育つ会



兵庫県北部の但馬地域で、自治体を横断する地域医療連携推進法人の設立と、山間部の高齢者に医療・福祉を届ける「小さな拠点」づくりに取り組む。本事業では、地域金融機関と協業し、セミナーや広報、個別アプローチを通じて関係者の連携促進を目指す。情報ネットワークを整備し、医療情報の共有や遠隔服薬指導、薬剤の共同購入などによって効率化を進め、地域包括ケアの基盤を整備する。

一般社団法人 東の食の会



東日本大震災から11年。流出した人口を取り戻すため、生産の復活と流通拡大に努める。具体的には“ヒーロー生産者”を中心としたコミュニティの形成、ヒット商品の企画開発支援、国内外の販路形成、食関連企業とのマッチング、広報支援などを行う。本事業では、原発事故により復興が遅れる福島県の浜通り地域を対象に、農業・漁業をはじめ食関連産業全体の復興を進める。

特定非営利活動法人  
Local Life Design(ローカルライフデザイン)

宮城県牡鹿郡女川町の「健康プロジェクト」実行団体として発足。コロナ禍以降は「復興連絡協議会」の戦略室として、健康面にとどまらず、総合的なまちづくり活動を行う。本事業では、新たに創業支援体制を構築、地域内で継続的に新規事業が生まれる環境づくりを目指す。具体的には、創業支援団体・まちづくり会社などと連携し、新事業創造センター創設や起業家発掘などに取り組む。



休眠預金事業支援先合同セッション

2021年11月24日から2日間、10実行団体とSIIF関係者が意見交換



SIIF 休眠預金事業インパクトレポート

休眠預金事業として国内初のインパクトレポートを発行。

### 「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」(2021年度事業)

来年度は、地域インパクトファンドを設立・運営する法人を対象に、3~4団体を支援する計画です。地域金融機関のインパクト化、ローカルインパクト創出の仕組み化、ソーシャル・ローカルビジネスの自立を目指します。



## 組織概要

団体名称	一般財団法人 社会変革推進財団 Japan Social Innovation and Investment Foundation (SIIF)
住所	〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目11番28号6F
設立年月	2018年9月
沿革	<p>2013 日本財団が日本におけるインパクト投資普及のための調査研究を開始</p> <p>2014 日本財団内に社会的投資推進室を発足、G8社会的インパクト投資タスクフォース(現 Global Steering Group for Impact Investment:GSG)に民間代表として日本財団が参画 日本財団がGSG国内諮問委員会の事務局を務める</p> <p>2015 横須賀市、尼崎市、福岡市等でソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)のパイロット事業実施</p> <p>2016 社会的インパクト評価イニシアチブ(現 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ:SIMI)発足、事務局として参画</p> <p>2017 インパクト投資の市場構築に向けた取組みを本格化させるため、社会的投資推進財団を設立 神戸市、八王子市でヘルスケア分野のSIBを日本で初めて本格導入</p> <p>2018 神奈川県ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンドへ参画</p> <p>2019 新生企業投資、みずほ銀行と協働でインパクト投資ファンドを設立・運営 一般財団法人社会変革推進機構と合併し、社会変革推進財団と改称 2019年度休眠預金等活用制度の「地域活性化ソーシャルビジネス成長支援事業」の資金分配団体として採択 信金中央金庫とパートナー協定を締結</p> <p>2020 空き家を活用した多拠点生活を楽しむためのCo-livingサービス「ADdRESS」への出資・支援を開始 金融庁・GSG 国内諮問委員会(事務局:SIIF)共催「インパクト投資に関する勉強会」の隔月開催を開始 2020年度休眠預金等活用制度の「コレクティブインパクトによる地域課題解決事業」の資金分配団体として採択</p> <p>2021 社会課題の解決と持続的な経営の両立を目指すゼブラ企業を支援する「Zebras and Company」への出資・支援を開始 2021年度休眠預金等活用制度の「地域インパクトファンド設立・運営支援事業」の資金分配団体として採択 インパクト投資の先駆的実践団体「アキュメン」と業務提携 SIIF提案により、金融機関21社が「インパクト志向金融宣言」に署名</p>

理事長	大野 修一
専務理事	青柳 光昌
常務理事	工藤 七子 高石 良伸
理事	岡本 拓也 [千年建設代表取締役社長] 金田 修 [游仁堂(Yo-ren-Limited) CEO] 永田 俊一 [三菱UFJ信託銀行信託博物館長、元預金保険機構理事長]

監事 五十嵐 裕美子 [五十嵐総合法律事務所 弁護士]

評議員	大田 弘子 [政策研究大学院大学特別教授、日本生産性本部副会長] 尾形 武寿 [日本財団理事長] 北川 正恭 [早稲田大学名誉教授、早稲田大学マニフェスト研究所顧問] 柴田 弘之 [信金中央金庫理事長] 杉田 亮毅 [日本経済新聞参与、日本経済研究センター参与] 高木 剛 [日本労働組合総連合会顧問] 高橋 陽子 [日本フィランソピー協会理事長] 田中 明彦 [政策研究大学院大学長] 樽見 弘紀 [北海学園大学名誉教授] 丹呉 泰健 [日本たばこ産業株式会社社友、元財務事務次官] 中江 有里 [女優、作家] 二橋 正弘 [自治総合センター会長、元内閣官房副長官] 堀内 勉 [多摩大学社会的投資研究所副所長・教授、元森ビルCFO] 磯崎 功典
-----	---



Supported by THE NIPPON FOUNDATION

組織概要ならびに役員等は2022年3月31日現在のものです。

当財団の事業は日本財団の助成を受けて実施しています。

## 財務状況

### 正味財産増減計算書

#### I 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
経常収益計	546,280,429
(2) 経常費用	
事業費計	425,785,007
管理費計	98,502,468
経常費用計	524,287,475
評価損益等調整前当期経常増減額	21,992,954
当期経常増減額	21,992,954
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
税引前当期一般正味財産増減額	21,992,954
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	21,922,954
一般正味財産期首残高	33,982,984
一般正味財産期末残高	55,905,938

#### II 指定正味財産増減の部

休眠預金等交付金	263,953,338
受取民間助成金	640,090,000
受取補助金等計	904,043,338
特定資産評価損益等	△ 1,269,043
一般正味財産への振替額	
一般正味財産への振替額	△ 515,108,869
当期指定正味財産増減額	387,665,426
指定正味財産期首残高	1,166,570,789
指定正味財産期末残高	1,554,236,215

#### III 正味財産期末残高

1,610,142,153

2021年4月1日から2022年3月31日まで(単位:円)

### 貸借対照表

#### I 資産の部

1. 流動資産	
流動資産合計	115,653,526
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
基本財産合計	10,000,000
(2) 特定資産	
事業運営平衡基金	30,000,762
社会変革推進事業基金	438,354,115
社会変革事業資産	91,072,720
休眠預金事業資産	340,697,719
基金等準備金	190,559,000
有価証券	416,317,214
什器備品	1,303,131
建物付属設備	8,775,074
敷金	27,156,480
特定資産合計	1,544,236,215
固定資産合計	1,554,236,215
資産合計	1,669,889,741

#### II 負債の部

流動負債合計	50,144,588
固定負債合計	9,603,000
負債合計	59,747,588

#### III 正味財産の部

1. 指定正味財産	
休眠預金等交付金	275,697,719
民間助成金	1,273,852,162
寄付金	6,218,500
有価証券評価損益	△ 1,532,166
指定正味財産合計	1,554,236,215
2. 一般正味財産	55,905,938
正味財産合計	1,610,142,153
負債及び正味財産合計	1,669,889,741

2022年3月31日現在(単位:円)

一般財団法人 社会変革推進財団  
Japan Social Innovation and Investment Foundation (SIIF)  
〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目11番28号6F  
Tel. 03-6229-2622 | Fax. 03-6229-2621 | Mail. info@siif.or.jp  
<https://www.siif.or.jp>